

地域委員会等に関する状況調査結果

【配布日】平成22年10月18日（月）

【回収日】平成22年10月19日（火）～29日（金）

【実施】地域振興戦略部

【送付数】140

【回答数】105

【回答率】75.0%

地域別回答数及び回答率

中之島	越路	三島	山古志	小国	和島	寺泊	栃尾	与板	川口
10	11	13	8	9	11	7	11	12	13
71.4%	78.6%	92.9%	57.1%	64.3%	78.6%	50.0%	78.6%	85.7%	92.9%

※結果にある《地域》は、各地域で一番回答が多かったもの、または、回答された方の地域を示しています。

《中》・・・中之島

《越》・・・越路

《三》・・・三島

《山》・・・山古志

《小》・・・小国

《和》・・・和島

《寺》・・・寺泊

《栃》・・・栃尾

《与》・・・与板

《川》・・・川口

平成22年12月

長岡市地域振興戦略部

地域委員会等に関する状況調査結果まとめ

◇地域委員会に関すること

○開催回数について

今年度の開催数が少ないという意見はあったが、半数以上が十分、または適当な開催数と感じている。

○配布資料について

配布時期を早めるべきとの意見があったが、約6割が資料の内容及び配布時期について支障なしと感じている。

○議論の時間・内容について

約4割が十分議論できていると感じている。また、内容によっては議論が不足しているものがあり、掘り下げが必要であると感じている。

○地域間交流について

地域間交流の継続、必要性を求める意見が約4割を占めた。今後の改善点として、事前に地域内の問題意識を高めて参加すること、交流会当日の意見交換の時間を十分に取る必要があるとの意見がある。

○地域委員会の活動の場について

「地域の課題を共有する場」として必要と感じている意見が85%と最も多く、次いで、「地域づくりの状況を確認する場」として必要が74%、「地域住民の声を伝える場」として必要が71%、「住民主体の地域づくりを進める場」として必要が70%となっている。

◇地域づくりに関すること

○大事にしていきたいもの

・地域の課題を共有する場

ex) 少子高齢化の問題、地域の歴史的遺産の活用、生きがいつくり、高齢者・障害者への手助け等、交通安全対策、地域産業のPR

コミュニティに関すること（センター設置・世代間交流・コミュニティビジネス）

○見直していきたいもの

ふるさと創生基金事業 → 事業決定のプロセスの見直し

- ・地域をあげて取り組めるような事業展開
- ・住民共同参加による宝物の掘り起こし
- ・新しい取り組みだけでなく、一つの事業の継続も必要

地域コミュニティ事業補助金 → 事業の継続を含めた制度の見直し

- ・補助金を小さくして、より多くの団体が活動できるようにする
- ・活動を継続させるには、補助の継続が必要
- ・積極的な活用を図るためにも、成果発表の機会を設けるべき
- ・もっと多くの事業団体が生まれるようにする（地域のリーダーづくり）

◇行政に関すること

○支所に関すること

- ・地域委員の役割を住民に知らせること。
- ・地域のリーダーをつくる手立てを行ってほしい。
- ・地域づくりは住民と行政との連携がないと継続しない。

○地域振興戦略部など、本庁部局に関すること

- ・全般的に住民サービス低下とならないようにしてほしい。
- ・他地域に異動した職員は、早くその地域を把握してほしい。
- ・周辺部へもしっかり目を向けてほしい。
- ・今は安心しているが、山間地等に街中との格差が生まれることなく、これからも地域振興等バランスよく取り計らってほしい。

◇各質問項目に対する回答

■あなたの地域の地域委員会や地域の課題等についてお聞きます。

【問1】 地域委員会の議題や運営等、気になる点についてご意見・ご要望などを記入してください。

〈開催回数に関すること(分科会も含めて参加に支障がないかどうかなど)〉

十分である、支障なし、適当な回数等	57	《三・山・和・栃・与・川》
少ない、今年は少ない、増やすべき等	34	《中・越・小・寺・栃》
その他意見、無回答等	19	

(その他意見・要望)

- ・ 定例開催とし、スケジュールを決めて開催されると、予定がたてやすくなり助かる。《越》
- ・ 開催曜日が偏らないようにしてほしい。《三》
- ・ 開催回数が減ると負担は少なくなるが、今後の開催頻度が気になる。《寺》
- ・ 開催日は、平日が多く、勤務と重なり出席できないことがある。《栃》

〈運営に関すること(配布資料の構成や報酬等に支障がないかどうかなど)〉

配布資料・時期、報酬について支障なし	64	《中・三・山・小・和・寺・栃・与・川》
配布資料の充実・配布時期を早める等の改善要望	21	
その他意見、無回答等	32	《越・小》

(その他意見・要望)

- ・ 継続的にテーマを持ち、問題提示をしながら開催すれば、レベルの高い議論ができる。《越》
- ・ 議題はもっと深く掘り下げていったほうがよい。《三》
- ・ 地域の課題をもっと取り上げて検討したほうがよい。《小》
- ・ 行政の提案ではなく、委員側からの提案型会議がいいのではないか。《与》

〈議論の時間、内容に関すること(分科会も含めて十分な議論ができているかどうかなど)〉

十分な議論ができている、問題なし等	44	《越・三・山・小・和・寺》
議論の機会・時間を増やすべき、内容によっては不足等	29	《中・栃》
その他意見、無回答等	35	《三・与・川》

(その他意見・要望)

- ・ 十分な議論をするには、課題を絞り込む必要がある。《三》
- ・ テーマ、目的をもっと明確にするとよい。《寺》
- ・ わかりやすい説明を受ければ、意図することがわかり、発言しやすくなる。《与》
- ・ 議論の入り口に終始しがちで、なかなか深まっていけないことがある。《三》

〈地域間交流に関すること(合同研修会などの活動が議論にいかされているかなど)〉

いかされている、交流会等は必要、継続を望む等	45	《三・山・小・和・栃・与》
まだいかされていない、意見交換が必要、回数の改善が必要等	30	《中・寺・栃》
その他意見、無回答等	37	《中・越・山・寺・川》

(その他意見・要望)

- ・ 交流の前に、地域内についての問題意識を高めることが大切である。《越》
- ・ 限られた任期の中では、地域住民と交流をした方がよい。《栃》
- ・ 長岡地域の住民との交流も大切である。《栃》
- ・ 地域間での分科会があってもいいのではないか。《越》

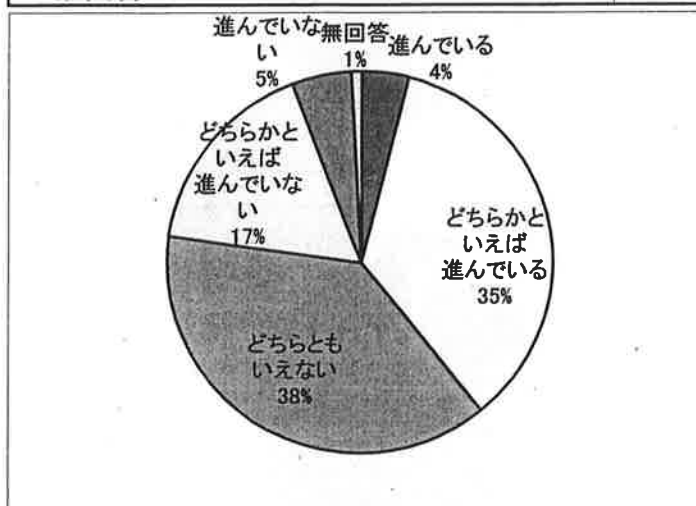
〈その他、地域委員会へ望むこと等〉

- ・ 自主的な事業の発案や計画が必要ではないか。《中》
- ・ 自地域だけでなく、長岡市全体を視野に入れ議論したい。《越》
- ・ 地域の活性化に向けたまちづくりは、様々な機関、組織の連携が効果を生み出す。《越》
- ・ 地域内の問題、課題を十分に話し合うことが大切である。《山》
- ・ 長岡市の一部ということではなく、新しい長岡市を創りあげていく架け橋となれるといい。《和》
- ・ 地域委員であることに意義を感じられる会であってほしい。《寺》
- ・ 地域委員の選任の際は、会議に出席できる人をお願いしたい。《栃》
- ・ 問題提起ができるよう、視察・研修を重ねることも必要ではないか。《川》

※主な意見を集約し、延べ人数で集計しています。

【問2】 日常生活での利便性、各種イベント等の開催などの地域間交流による新市のまとまり感、一体感の醸成が図られていると感じていますか。該当するものに○をつけて、その理由を記入してください。

1 進んでいる	4	
2 どちらかといえば進んでいる	37	《中・三・山・小・和》
3 どちらともいえない	40	《越・小・和・栃・与・川》
4 どちらかといえば進んでいない	18	《寺》
5 進んでいない	5	
6 無回答	1	



〈理由〉

○進んでいる・どちらかといえば進んでいる

- ・ 各種イベントによって交流が深まっている。《中》
- ・ 旧市町村のイベントについてもパンフレットが配布されている。《中》
- ・ どんな地域があるかわかってきた。《越》
- ・ 市政だより等で各地域のイベント等の開催を知ることができる。《越》
- ・ 広報等による地域間の声の掛け合いが見受けられ、一体感があると感じる。《山》
- ・ 年々長岡市民としての自覚ができてきているように感じ、交流が深まるのではないかと。《小》
- ・ もちひと祭りに与板の刃物市の参加など、徐々に地域間の一体感が進んでいる。《小》
- ・ 地域委員同士の交流時、各地区の取り組みなどの話し合いがなされている。《和》
- ・ お互いの地域の行事に、地域間の交流がある。《与》

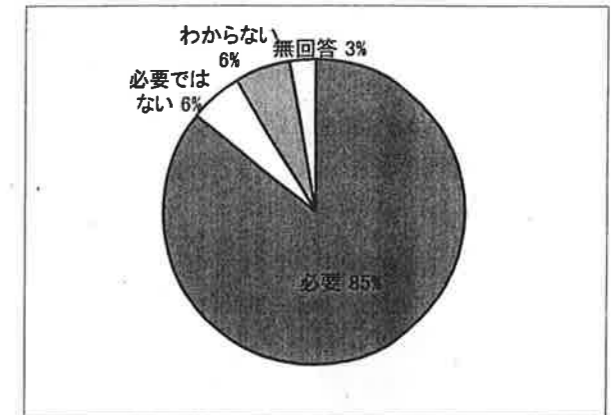
○どちらかといえば進んでいない・進んでいない

- ・ イベントは積極的に行われていると思うが、交通の便が悪い。《中》
- ・ 各地域のまとまりは合併後強くなったと思うが、一体感はない。《越》
- ・ 住民が地域間交流を希求しているように感じない。《三》
- ・ 地域では盛り上がっているが、全体ではまだまだという感がある。《三》
- ・ イベント時期の偏りにより、参加者がばらけている。《山》
- ・ 山間地や市街地等状況が違うため、まとまるのは難しいのではないかと。《小》
- ・ 以前との違いは感じられない。《寺》
- ・ 各種イベントは関係者のみで開催され、発展性がない。《栃》
- ・ 他の地域との交流がない。《川》

【問3】 地域委員会の活動の場について、どのように感じているか、それぞれ該当するものに○をつけてください。

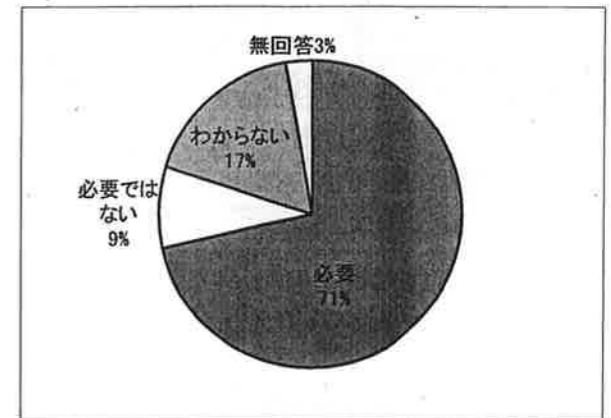
1 地域の課題を共有する場として

必要	90	《全地域》
必要ではない	6	
わからない	6	
無回答	3	



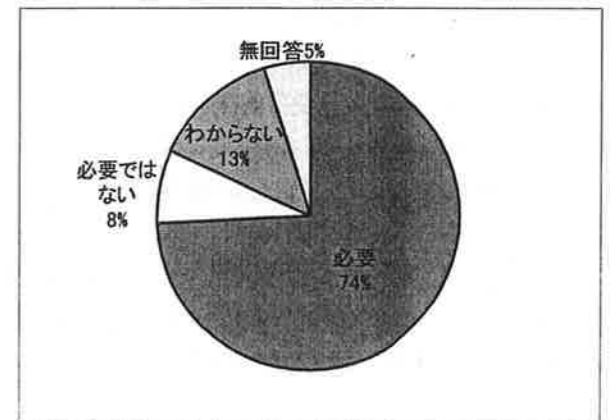
2 地域住民の声を伝える場として

必要	75	《全地域》
必要ではない	9	
わからない	18	
無回答	3	



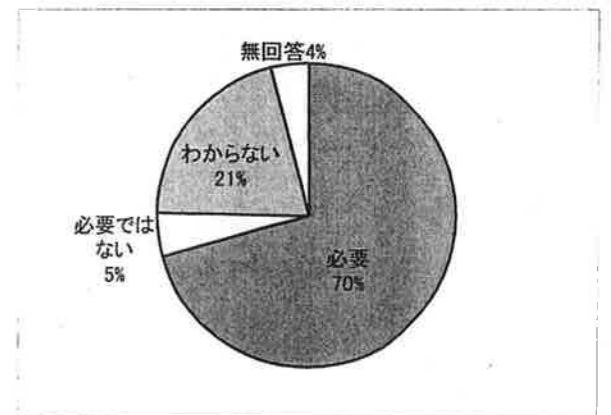
3 地域づくりの状況を確認する場として

必要	78	《全地域》
必要ではない	8	
わからない	14	
無回答	5	



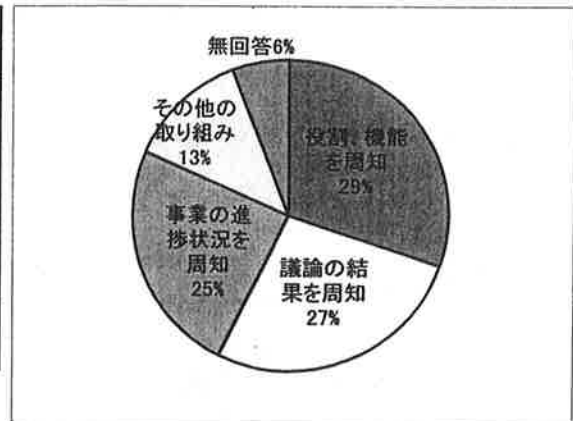
4 住民主体の地域づくりを進める場として

必要	74	《全地域》
必要ではない	5	
わからない	22	《山》
無回答	4	



【問4】 地域の方々に、地域委員会の活動の理解度を高めてもらうために必要と思われる取り組みに全て○をつけ、考えられる具体的方策を記入してください。

1 住民に、地域委員会の役割、機能を周知する取り組み	68
2 住民に、地域委員会の議論の結果を周知する取り組み	60
3 地域委員会で議論したふるさと創生基金事業などの進捗状況を周知する取り組み	55
4 その他の取り組み	28
5 無回答	13



〈考えられる具体的方策〉

1 住民に、地域委員会の役割、機能を周知する取り組み《中・越・山・小・和・寺・栃・川》

- ・ 書面にして、町内回覧して読んでもらってはどうか。《中》
- ・ 委員会で議論したことを、結論が出なくても情報を出した方がよい。《中》
- ・ 区長会、町内会等との意見交換により、地域住民への周知を図る。《越》
- ・ 地区会、町内会等へ、役割・機能・メンバー等を知らせる。《三》
- ・ 地域住民と地域委員会が一体となって活動しながら、役割を理解してもらう。《寺》
- ・ 支所だよりに定期的に掲載する。《栃》

2 住民に、地域委員会の議論の結果を周知する取り組み《中・三・山・小・栃》

- ・ 委員の中に広報委員を設置し、専用広報を出せると良い。《中》
- ・ 今何が議論されているか等、支所だよりに載せてはどうか。《越》
- ・ 各地域の役員会議(町内会長会等)に出席して意見交換をする。《三》
- ・ HPの公開だけでなく、要約を文書にて配布する。《三》
- ・ 地域の人が理解するには難しい文章では誰も読まない。分かりやすくする方法を。《小》
- ・ 広報に目立つように掲載する。《与》

3 地域委員会で議論したふるさと創生基金事業などの進捗状況を周知する取り組み《和・与》

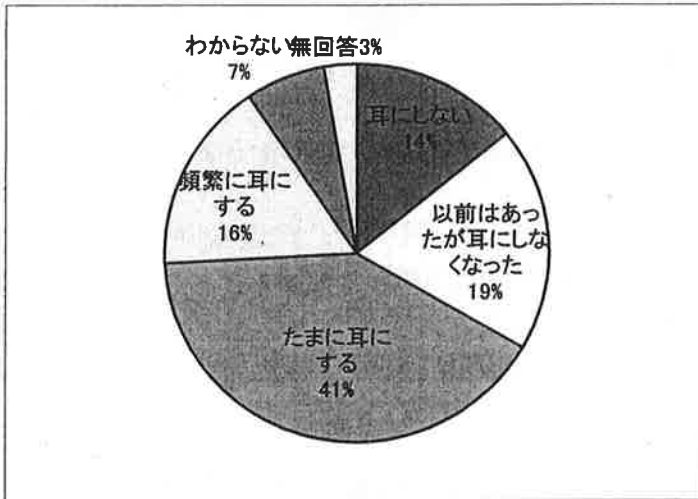
- ・ 地域委員がふるさと創生基金事業に参加することで周知できる。《中》
- ・ 広報による案内、看板・ポスターなど住民の目に直接写る細やかなPRが必要である。《越》
- ・ 集落単位の総会や寄り合い等で、内容を発表する場を設けるといい。《山》
- ・ 具体的な進捗状況を支所だよりに載せたらどうか。《和》
- ・ 老若男女問わず、色んな方々に参加しもらう。《与》
- ・ 地域委員会の中で報告等をしてはどうか。《川》

4 その他の取り組み

- ・ 要望等を市民から聞く場を設ける。《中》
- ・ 地域の活性化、よりよい生活環境づくりに地域住民の協力をお願いする。《越》
- ・ 地域委員会の活動の範囲を広める。《三》
- ・ 他の地域委員会の活動状況、地域状況を住民に知らせることで、合併地域の様子がわかる。《小》
- ・ 各自治会(町内会)との合同会議の開催。《寺》
- ・ 行政が何かをやってくれるといった体質からの脱却が必要。《寺》

【問5】 地域委員会は、合併により市役所が遠くなり不便になるのではないかと、地域の伝統や文化が失われるのではないかなどの不安を解消するために設置したのですが、現在も、合併前と同じような不安の声は聞こえていますか。該当するものに○をつけて、耳にする場合は、どのような声があるか、なぜそのように感じられるのか記入してください。

1 耳にしない	15	《山》
2 以前はあったが耳にしなくなった	20	《和》
3 たまに耳にする	43	《中・越・三・小・寺・栃・川》
4 頻繁に耳にする	17	《与》
5 わからない	7	《寺》
6 無回答	3	



〈3. たまに耳にする、4. 頻繁に耳にすると回答のあった主な不安の声〉

不安の声	そう感じる背景	地域
・合併後、本庁の計画が見えてこない。	・支所の職員が少なすぎる。	《中》
・行政が遠くなってしまった。	・地域の細部の声が届きにくくなっていることがあるのではないかと。	《越》
・支所がいずれなくなるのではないかと。	・コミセン化により、支所が役割を果たしていた行事が減ることなど。	《越》
・困ったり、心配事がある際に、直接相談、要望に行けない。	・支所独自の判断ができない面が多い。	《与》
・役所の対応が悪くなった。	・合併後5年が経過したが支所に知っている人がいなくなってきた。何となく敷居が高い。	《三》
・地域が長岡市の中に埋没してしまうのではないかと。	・地域のことを良く知る職員が少なくなった。	《山》
・本庁に集中してる感じがある。	・伝統や文化だけでは、地域は良くならない。	《小》
・市役所が遠くなり、不便を感じる。	・支所と地域との交流が希薄になっている。地元出身職員の減少によるものか。	《和》
・地域の声が支所に通らない。	・地域の要望をあげにくい。	《寺》
・合併前は町議会議員や町長が住民の声を聞いてくれた。今は声が届かない。	・議員がいない地域は、地域がまとまっていなように感じる。	《栃》
・今までより末端の声が届かなくなった。	・地域委員会の役割を十分理解されていないことが原因かもしれない。	《与》
	・地区総代を通じた要望が通らなくなっている。	《川》

【問6】住民が自由な発想で、創意工夫しながら自分の地域を良くする住民主体のまちづくりを進めていくには、何が課題になると思いますか。そう思う理由も記入してください。

〈教育文化分野〉

課題	理由	地域
・少子高齢化の問題	・人口減少により、伝統等を継承するものがないくなる。	《山》
・地域の歴史的遺産の活用	・地域の活性化につなげられていないこと。	《小》
・地域の歴史・文化の充実	・地域を知るには、住民による身近な歴史文化の発見があるといい。	《和》
・コミュニティセンターの設置	・住民が自ら考え、自ら実行するための組織と場が必要である。	《栃》
・子どもの地域づくりへの参加	・学校を巻き込んだ地域づくりがなければ、文化・教育、地域の存続もないのではないか。	《川》

〈福祉・健康分野〉

課題	理由	地域
・誰もが生きがいを持って暮らせること	・高齢になっても住み慣れた地域で自立した生活を送ってほしいと思う。	《中》
・高齢者、障害者への気配り、手助け等	・過疎化により交通アクセスの不便性から。	《越》
・高齢者への対応のあり方	・福祉活動をしている団体等の連携が少ないと思うため。	《三》
・予防医学の推進	・自分の健康を自分で守るという意識が十分でないため。	《小》
・人間関係の希薄化、少子高齢化	・隣近所における相互扶助、相互交流が衰退してきていると感じるため。	《与》

〈生活・都市基盤分野〉

課題	理由	地域
・一人ひとりが安全で安心して暮らせること	・災害や犯罪、事故などから身を守ることは必要であるから。	《中》
・公共交通のマップがなくわかりにくい。	・生活者の立場で作成する。	《越》
・高齢者の交通対策	・買物、病院への交通機関が不足していると感じる。	《寺》
・地域内の中心市街地と村部との交流	・共に協働しながら地域づくりをする。	《栃》
・世代間コミュニティの活性化	・同世代はあっても、世代を越えた付き合いが不足している。	《与》

〈環境・産業分野〉

課題	理由	地域
・地場産業のオンリーワン開発	・地域に優れた産業があることを、地域をあげて取り組む。	《越》
・里山の活性	・自然との共生は自然(里山)に触れることが必要。	《三》
・自然景観の維持	・稲作の振興が棚田等の耕作放棄地の防止に繋がる。	《山》
・住民総参加による自然環境の整備	・農業関連事業、花いっぱい運動等を実施できるとよい。	《和》
・コミュニティビジネスへの発展	・この考え方を持つことが必要である。	《川》

■ふるさと創生基金事業についてお聞きします。

【問7】 ふるさと創生基金事業について、住民主体の取組みとして、どの事業が良かったと思いますか。該当する事業名を2つ選んで、そう思った理由を記入してください。

※上位2事業を掲載

○中之島

	事業名	事業内容
1	大口れんこん収穫体験ツアー	・収穫体験を通じての特産品PR
2	伝統行事体験事業	・大凧合戦棧敷席の設置と、中学生の大凧合戦体験
2	なかのしま探検隊	・地域住民を対象にした、中之島の史跡、名所めぐり

○越路

	事業名	事業内容
1	トキめき新潟国体支援事業	・国体開催に伴い、会場及び道路の美化や、会場での飲食物提供を通じた地域のPR
2	ホタル生息地修復事業	・ホタル生息地の修復、再生及び環境保全活動
2	もみじ園もみじ再生整備事業	・もみじ園再生整備基本計画の策定及び実施設計委託

○三島

	事業名	事業内容
1	三島花いっぱい事業	・各町内や道路における植栽活動
2	みしま民話プロジェクト	・地域に伝わる民話を継承するための紙芝居や劇、絵本の制作等

○山古志

	事業名	事業内容
1	震災対策訓練関連事業	・集落ごとの防災に関するワークショップや防災マップの作成、地域ぐるみの防災訓練の実施
2	長岡まつり民謡流し参加	・長岡まつり民謡流しへの参加

○小国(回答が分かれたため1事業のみ掲載)

	事業名	事業内容
1	おぐに地域フラワーパーク助成事業	・集落内の空地を利用した花壇作りと、植栽の実施

※上位2事業を掲載

○和 島

	事業名	事業内容
1	里山遊歩道魅力発信事業	・雪割草の保護や遊歩道整備による村岡城跡の周辺整備の実施等
2	ふるさとの魅力発信事業	・各集落における集落案内看板の作成、設置

○寺 泊

	事業名	事業内容
1	地域を担う子どもたちへの寺泊特産品試食会	・地域で収穫された菜種油をはじめとした農産物、海産物のPR
2	寺泊の食材PR事業	・「花いっぱいフェア」のサテライト会場(寺泊)における、弁当販売等を通じた地域の食材PR

○栃 尾

	事業名	事業内容
1	栃尾城物語冊子作成事業	・栃尾城の歴史についての冊子作成
2	栃尾の魅力発信プロジェクト	・「雁木あいぼ」の拡充や、地域住民を対象とした学習会等を通じた地域の魅力PR
2	文化財等記録保存伝承事業	・地域に伝わる伝統芸能の記録保存

○与 板

	事業名	事業内容
1	中川清兵衛ビールフェスタ拡充事業	・中川清兵衛ビールフェスタの拡充と、地域の農産物を使った子ども料理コンテストの開催
2	環境美化活動	・全町内を巻き込んだ地域全体での環境美化活動

○川 口(初年度のため1事業のみ)

	事業名	事業内容
1	川口地域里山再生事業	木沢、東川口、和南津、田麦山、山ノ相川の5地域の里山整備を実施。また、地域内の観光施設を紹介した案内マップを作成し、地域内外に発信することにより、交流人口の増加を図る。

【問8】 問7の良かった事業の質を高めたり、発展させていくために、ふるさと創生基金事業で取り組む点がありましたら記入してください。

〈主な意見〉

- ・ 事業に地域委員も参加しないと、質の向上や発展させる取り組みがわからない。《中》
- ・ 地域をあげて取り組めるような事業展開を考えて提案していくことが必要。《越》
- ・ 住民がわかりやすい事業で使われると、「ふるさと創生基金」という認知度もあがり、色々な事業が名乗り出るのではないか。《越》
- ・ 宝物の掘り出しと新しい発想の中で、住民共同参加の事業を見つけ出す。《越》
- ・ 若い世代の意見を十分に聞き出し、事業の主体性を持たせる。《越》
- ・ 共に汗をかいた人達が集まったり、努力を称えあったりする場を大切にしていくことも必要である。(連帯感が生まれてくる)《三》
- ・ 事例発表など、成果を聞いていく機会があったほうが良い。《和》
- ・ 限定された地区に限らず、地域全体で盛り上げていくこと。《和》
- ・ 農業・漁業・観光産業振興を地域コミュニティ活動として、関係者が連携した取り組みを充実させる必要がある。《寺》
- ・ 小中学生、高校生によるボランティアガイドの養成の実施。《栃》

（広報に関すること）

- ・ マスコミにおおいにアピールする。《栃》
- ・ 他地域から沢山きていただくようPRをする。《栃》
- ・ 一部の人だけが知っていることでは困る。広報が必要。《栃》
- ・ パンフレットによるPRを実施する。《川》

（事業の継続に関すること）

- ・ 新しい取り組みだけでなく、一つの事業の継続も必要。《三》
- ・ 事業を1回実施するのではなく、継続することも大事である。《中・山》
- ・ 過去の事業への内容追加も可能とし、事業を拡大させ、地域の活性化を図る。《小》
- ・ 継続的に事業ができると、より質を高め、発展できると思う。《和》
- ・ 内容の質を落とさずに、継続して取り組むことが大事である。《与》
- ・ 単年度でなく、基金を累積させた大きな事業にし、目に見える事業にしたい。《川》

■地域コミュニティ事業補助金についてお聞きします。

【問9】地域コミュニティ事業補助金について、住民主体の取組みとして、どの事業が良かったと思いますか。該当する事業を2つ選んで、そう思った理由を記入してください。

※上位2事業を掲載

○中之島(回答が分かれたため1事業のみ掲載)

	事業名(実施団体)	事業内容
1	中之島音頭を唄いつなぐプロジェクト事業 (中之島音頭を唄いつなぐ会)	・中之島音頭の唄い手を地域全体で発掘。あわせて、誰もが唄える地域の愛唱歌にするため、普及、振興に努めた。

○越路

	事業名(実施団体)	事業内容
1	もっと岩田を知ろう！守ろう！ (岩田有志会)	・里山等を散策しながらゴミ拾い等を行い、保全・維持する大切さや環境美化への関心を高め、また、大凧を地域総出で揚げ、一体感を強めた。
1	「ふらわーろーど200」子ども達とみんなで花いっぱいしよう！ (特定非営利活動法人 ドリーム)	・花プランターの設置や清掃活動、七夕飾りの作成などを地域住民と実施。
1	越路発 ご当地グルメ (越路せいこん)	・地元食材を使ったご当地グルメを開発し、完成したメニューのレシピを各家庭に配布。また、料理グランプリを開催し、地域の活性化を図った。

○三島

	事業名(実施団体)	事業内容
1	みんなでホテルをそーっと見に行こう事業 みんなで風鈴付竹提灯をつくってみよう！事業 みんなで創る創作竹灯籠事業 (三島ライトアップ実行委員会)	・上岩井、蓮花寺地区で、ホテル鑑賞会と環境保全の講演会の実施。 ・住民に竹提灯の制作に参加してもらい、里山再生事業、循環型利用事業の展示を実施。
2	西山連峰開発道路(市道二和158号線)緑化事業(鳥越福祉会)	・延長約1kmの市道に、桜や山ボウシ等約40本を植樹し、道路沿線の景観環境の向上と里山再生を推進。また、PR用パンフレットを作成。

○山古志

	事業名(実施団体)	事業内容
1	山古志伝統芸能 継承事業 (山古志子ども太鼓会)	・地域の芸能文化を保存継承するため、各集落の「盆太鼓」を学び、次年度の盆踊りに参加することを目標に盆太鼓教室を実施。
2	山古志伝統料理 伝承事業 (山古志 食・農研究隊)	・山古志に伝わる伝統料理の冊子編集及び、その冊子をもとにした料理講習会を実施。
2	地域連携と情報発信整備事業 (山古志有広会)	・やまこしありがとう広場の開催、地域の情報発信のためのホームページ作成等。

○小国

	事業名(実施団体)	事業内容
1	農村コミュニティカフェ事業 (農村コミュニティカフェを推進する会)	・「コミュニティカフェ」を開催し、老若男女問わず参画できる地域づくりのきっかけを創出した。
2	歴史漫画「流れは絶えることなく -小国氏伝説-」作成事業(小国町歴史ロマンを語る会)	・小国発祥の祖「小国氏」と小国の歴史に関する漫画本作成のためのシナリオづくり。
2	新小国十景発掘による新名所作り事業 (小国俳句作家連盟)	・地域の景勝地を募集して新十景を選定し、環境を整備。新十景に関する俳句を公募し、高齢者の生甲斐作りと青少年の育成を図った。

※上位2事業を掲載

○和 島

	事業名(実施団体)	事業内容
1	住雲園保存活用事業 (越後鉄道の歴史を考え住雲園を守る会)	・住雲園の清掃活動や庭園管理講習会などの住民交流イベントを開催。
2	竹灯籠ライトアップナイト&夕涼み里山コンサート(ラビットファーム)	・約千本の竹灯籠の設置とコンサートを開催し、里山の良さを発信。

○寺 泊

	事業名(実施団体)	事業内容
1	「菜種油・油プロジェクト高内」農村景観形成・エコと食育・地産地消づくり事業 (高内環境整備委員会)	・菜種花の生産から消費、再利用までの資源循環活動を通じ、地域ぐるみの多様な人材育成と農村環境の保全及び地域コミュニティの質的向上を図った。
2	夏戸城跡整備事業 (夏戸城跡保存会)	・歴史的価値のある文化遺産夏戸城跡を、集落一丸となって整備し、住民が歴史と文化に親しめるきっかけをつくった。

○栃 尾

	事業名(実施団体)	事業内容
1	「ベースボールサクスフェスタ in ヨシズ'ベースボールフィールド」～名球界ベースボールクリニック&24時間マラソン野球～ (仮称) (栃尾公式野球場建設促進委員会)	・吉水野球場の完成を記念して、日本プロ野球名球界から講師を招きクリニック(小中学生200名)を開催。また、小・中学生及び一般から合計48チーム程度参加チームを募集し、24時間野球マラソン大会を実施。
2	栃尾の祭り活性化事業 (NPO法人フォーラム栃尾熱都(ネット))	・祭り灯籠製作などによる地域のまつり活性化支援および先進地におけるイベント研修。
2	栃尾謙信公祭 古式火縄銃実演 (新潟県古式炮術研究会)	・栃尾謙信公祭での火縄銃の実演を行うことで、上杉謙信や中世の栃尾に関心を持ってもらう。

○与 板

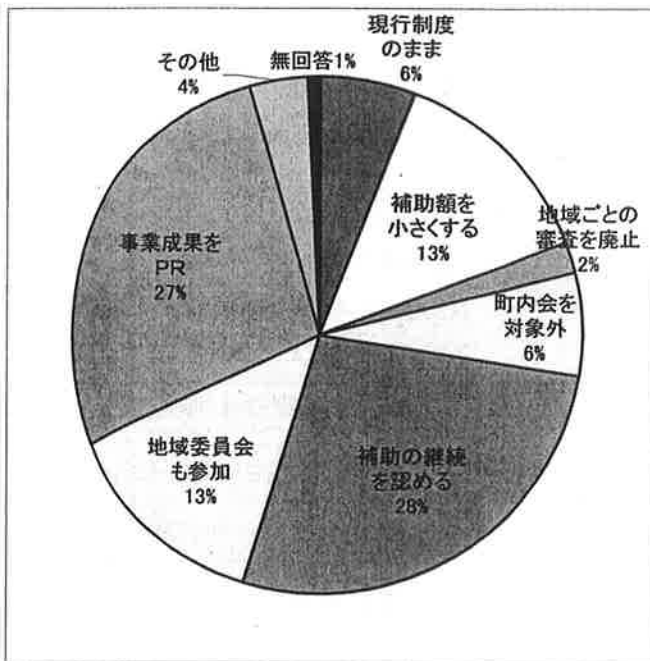
	事業名(実施団体)	事業内容
1	「なつかしの日本映画」愛コミュニティ映画館事業 (愛ラブ与板上映実行委員会)	・休館中の映画館を地域の交流館としてよみがえらせ、昔の日本映画を上映し、地域の活性化と住民同士のふれあいを図る。
2	キャンドル&ライトアップ事業 (橘井會(きっしょうかい))	・地元の名所旧跡をキャンドル等でライトアップし、地域資源の再確認と、地域内外へPRし、交流を図る。
2	ほたる(自然環境)保護と、ほたるが舞う町与板PR事業(与板町ほたるを守る会)	・パンフレットとホタル保護をPRする看板の作成・設置。また、ホタルライトの購入と貸出を実施。

○川 口

	事業名(実施団体)	事業内容
1	さんご山(川口スキー場跡地)活性化事業 (ふるさと夢づくりの会)	・さんご山を活用した交流事業の実施、コスモスまつりの開催。
2	ブナ林への散策道整備と交流事業 (いきいき田麦山)	・ブナ林コンサートの開催及びブナ林までの山道の整備。

【問10】「地域コミュニティ事業補助金」について、事業目的である地域づくり団体を増やしていくためにはどうしたら良いと思いますか。該当するものに全て○をつけて、その理由を記入してください。

1 現行制度のままで問題はない。	13
2 補助額を小さくして、より多くの団体が活動できるようにする。	29
3 競争力を強化するために、地域ごとの審査を廃止する。	4
4 地域づくり団体を増やすためには、町内会を補助対象者から除く。	14
5 コソコソと地域づくりに取り組めるように補助の継続を認める。	60
6 採択する事業には、地域委員会も積極的に参加するなど関わるようにする。	29
7 地域住民の事業の理解度を高めるために、事業終了後の成果などをPRする。	60
8 その他	8
9 無回答	2



〈理由〉

1 現行制度のままで問題はない。《山》

- ・十分成果が上がっているため。《和》

2 補助額を小さくして、より多くの団体が活動できるようにする。《中》

- ・もっと自由に応募できるように補助額を小さくし、少しでも多くの住民が関わっていくようにする。《中》
- ・事業成果をPRし、補助額を小さくし、継続的に活動できれば、団体が増えるのではないかと。《和》

3 競争力を強化するために、地域ごとの審査を廃止する。

- ・やる気のある団体、補助事業にマッチした団体に活動の場を与えるため。《与》

4 地域づくり団体を増やすためには、町内会を補助対象者から除く。

- ・当事者以外も参加しやすい環境づくりが必要と思うため。《与》

5 コソコソと地域づくりに取り組めるように補助の継続を認める。《三・小・和・寺・栃・与・川》

- ・補助の継続をしないと、最終的な目的に達することが難しい。《小》
- ・数年を要する事業もあるため、事業によっては補助金を継続する必要がある。《栃》
- ・活動を継続させるには、補助の継続が必要ではないか。《川》

6 採択する事業には、地域委員会も積極的に参加するなど関わるようにする。

- ・その事業をより知る努力は必要である。《寺》

7 地域住民の事業の理解度を高めるために、事業終了後の成果などをPRする。《中・越・小・和・寺・栃》

- ・実績と課題の報告があつて良い事業になる。《越》
- ・事業終了後の成果を地域住民に伝達し、新規団体の募集を募る。《小》
- ・支所のロビー等に事業のパネル展示をすると広く周知できる。《寺》

8 その他

- ・もっと多くの事業団体や地域があると思われる。その開発や地域のリーダー作りに取り組む。《三》
- ・単年度事業は現行。2～3年事業を新規に事業化できないか。《寺》

■地域で取り組んでいる各種事業についてお聞きます。

【問11】自地域で開催される住民参加が多い、地域資源を活かした取り組みにはどのようなものがありますが、そう思う理由も記入してください。

※回答のあった主な取り組み及び地域資源を掲載させていただきます。

地域	取り組み	地域資源
中之島	農業祭	農作物
	産業まつり	豊かな農産物
	れんこん収穫体験ツアー	れんこん
	灯籠押し合い	若者の活力
越路	雪像作り、秋まつり(収穫祭)	雪、地場生産物(地産地消)
	産業まつり	地域の農産物、加工品等の販売
	夏まつり	地区の神社
	観桜会	樹齢35年以上の桜並木
	ほたる生息地の保全活動	生息に適した環境
三島	産業まつり	農産物
	里山道路整備事業	旧日吉小学校林、広い里山
	そば祭	地元産そば粉、大杉公園
	春まつり・盆踊り	神社、神輿、行列
山古志	火まつり	人、農産物
	そばまつり	棚田、棚池の自然景観
	収穫祭	自宅での収穫品
	山菜、農産物の直売	山菜、農産物、錦鯉
小国	もちひとまつり	小国の歴史探求及び地域産業の紹介
	遊歩道の整備	峠の山道
	なじょら市など野菜の販売	地元で採れた野菜などの販売
和島	弓矢踊り	六夜祭り
寺泊	農と漁のフェスティバル	農産物、海産物
	菜の花フェスティバル	菜の花プロジェクト
栃尾	道の駅でのイベント	おりなす、道の駅周辺地域
	おかめかぼちゃ全国コンクール	地元で作っているおかめかぼちゃ
与板	楽山苑ライトアップ	楽山亭ほか
	十五夜まつり	登り屋台、歴史、伝統、団結
川口	お祭り(盆踊り各地区8ヶ所)	昔からの盆踊り、楽器等の文化
	村祭り	村の鎮守 熊野神社
	トレッキング、クロカン等	地域の山(自然)
	交流体験事業	棚田、山菜採り

【問12】住民主体で、隠れた地域資源等を活かして取り組みたいものはありますか。そう思う理由も記入してください。

※回答のあった主な取り組み及び地域資源を掲載させていただきます。

地域	取り組み	地域資源
中之島	新しい商品開発	れんこん
	おふくろの味体験	豊かな農産物
越路	歴史散歩	各地域に残された歴史遺産紹介
	地域芸能まつり	地域の芸能、文化
三島	1200年の歴史の蓮花寺の再発見、歴史書	地域の歴史(地名など)
	花いっぱい運動	各地区の通りに面した空地
山古志	石仏に関すること	石仏
	貸し農園(畑)	耕作放棄地
小国	地域資源(地域遺産)の発掘と紹介資料の作成	地域資源(地域遺産)
	山田、沢田の耕作放棄地の復活	地域特産品の栽培等
和島	水に関すること	おいしい水の出るところ
	里山トレッキングコース設置	林道等
寺泊	桜並木の保全	約200本の八重桜の並木
	体験型交流	自然すべて
	ドブ Rok 特区	野積杜氏
	クリーン作戦	海・自然
栃尾	中山間地の保全活動	自然(水、森林、田等)
	塩の井を使った温泉施設	上塩地区の塩の井
	守門大明神祭り	守門大明神
	茨木童子をテレビドラマ化	伝説茨木童子のふるさとと足跡
与板	西山丘陵開発	自然、身近な距離、景観
	与板探訪	城下町与板とそこに生きた人々
	畑の無償貸与(高齢者へ)	遊休農地
	合併地域と一体となり酒に関するものを題材にした観光まちづくり	酒に関する資源は合併地域で共有できる資源
川口	自然環境を生かした地域のPR	山林、山菜
	地元の食材～食	田、畑

【問13】支所の役割や必要な機能について思うことを率直に記入してください。

〈主な意見〉

- ・ 職員異動により地域内の情報共有、密着の関係がなくなっている。《越》
- ・ 地域づくりは住民と行政との連携がないと継続しない。《越》
- ・ 縦割りは仕方ないが、各部署で協力しあえることがあるのではないか。《越》
- ・ 支所独自の予算があるとよい。《越》
- ・ 地域の声を取り上げるアンケートを広く募集してはどうか。《三》
- ・ 地域委員の役割を地域住民に知らせること。《小》
- ・ 本庁、支所各課を自由に動ける部署、職員がいるとよい。《小》
- ・ 課によってはいくつかの支所を統合しても問題ないものもあると思う。その統合が地域間の壁を徐々に打破してくれるのではないか。《和》
- ・ 市内の色々な情報が集約され、自由に閲覧できる情報の発信基地になるとよい。《寺》

(要望)

- ・ 地域全体の住みよい環境づくりに目を向けてほしい。《中》
- ・ 支所長の権限をもっと重要に考えていただきたい。《越》
- ・ 行政から住民へと移行する事柄がスムーズに運ばれることを望む。《三》
- ・ NPO法人とまでいかななくても、地域のリーダーを作る手立てを行ってほしい。《三》
- ・ 一番身近な行政機関のため、機能の縮小はしないでほしい。《山》
- ・ もっと住民要望に応えられるようにしてもらいたい。《小》
- ・ 各地域委員会の活動状況を調べ、その状況を提供してほしい。《小》
- ・ 現在の支所機能は最低でも残してほしい。《寺》
- ・ 空室は地域住民のために借館してほしい。《栃》
- ・ 地域の特色は支所として継続してもらいたい。《栃》
- ・ 課の業務内容をはっきりさせるべき。支所入口に課の業務内容を明記した表示板を設置してほしい。《栃》
- ・ 若者の力を、他のところで発揮できるように考えてほしい。《与》

(職員に関すること)

- ・ 優しく、笑顔で住民に接してほしい。《中》
- ・ 来所した人に対して関心を持つこと。デスクワークより来所した人のほうが大事である。《中》
- ・ 地域の外回りに力や時間を注ぐ姿を地域住民に示すことが大切である。《三》
- ・ 職員の人事交流は必要だが、地域状況を早く把握して活躍できるようにしてほしい。《山》
- ・ 地域外出身の職員が多くなり、距離感を感じる。挨拶の掛け合いが大事である。《和》
- ・ 職員が自分の意見をはっきりといえる雰囲気づくりが必要である。《栃》
- ・ あまり遠慮せず、時にはリーダーシップをとることも大事ではないか。《与》
- ・ 職員はもっと地域へ出て行く必要がある。《川》
- ・ 住民要望等には、もっとフットワークよく対応してほしい。《川》

■自由意見欄

地域振興戦略部など本庁部局、行政全般に対するご意見・ご要望などありましたら、ご自由に記入してください。

〈主な意見〉

- ・ 農業振興に力を入れてほしい。《中》
- ・ 地域委員にとにかく働きかけてもらいたい。《中》
- ・ 地域の要望、相談に耳を傾けてもらいたい。《中》
- ・ 地域の小さな声が届きにくならない配慮を望みたい。《越》
- ・ 地域づくりは人材づくり。《越》
- ・ 市民には、わかりやすい言葉、表現、文章で伝えてほしい。《越》
- ・ 全般に市政を見渡すと、概ね市民本意に行政が動いていると感じる。《三》
- ・ 1ヶ所に集めた会議ではなく、集落に出向いて住民の声を聞くことが大切である。《山》
- ・ 山間地等は街中と格差が生まれるのではないかと心配な面がある。現在は安心しているが、地域振興等これからもバランス良く取り計らってほしい。《山》
- ・ 周辺部へもしっかりと目を向けてほしい。《小》
- ・ もっと活力ある地域委員会にしてほしい。《小》
- ・ 早く水道料金を一律にしてほしい。《和》
- ・ イベントは、地域内の連携、広域的な内容にするなど、結果的に充実した内容となるものがほしい。《和》
- ・ 編入合併のため、旧長岡方式となることもあると思うが、全般にサービス低下とならないようにしてほしい。《寺》
- ・ 支所間交流、情報の収集・提供を図ること、地域委員会の交流の継続強化を望む。《寺》
- ・ 窓口は支所の顔である。接客を大切に。《栃》
- ・ 住民だけに考えさせるのではなく、行政も一緒に考える姿勢がほしい。《栃》
- ・ 他地域に異動した職員は、早くその地域を把握してほしい。《栃》
- ・ 他地域の活動事例、最近の動き等を聞く機会を設けてほしい。《与》
- ・ 地域委員は、時間の自由が利き、やる気があり、行動力のある人を選んでほしい。《与》
- ・ 合併によって住民サービスが悪くなったと思われぬようにやってほしい。《川》
- ・ 職員の人事交流を積極的に進めることはできないものか。《川》